



その挑戦が青少年の未来を変える 第18回 雲南省少数民族児童教育支援 チャリティーゴルフコンペ開催

協会主催の「第18回雲南省少数民族児童教育支援チャリティーゴルフコンペ」が昨年11月15日（水）、津久井湖ゴルフ俱楽部（神奈川県相模原市）で開かれました。協会活動にご賛同いただいたゴルフ愛好家80名が集まり、スペシャルゲストとして元プロボクシングライトフライ級世界チャンピオンの具志堅用高様にもご参加いただきました。



今回は20の企業・個人の皆様からご協賛・ご寄付をいただき寄付金総額は28万円となりボランティア交通費やチラシ印刷代等の経費を差し引いた82,431円を協会へのご寄付としてお預かりし、教育支援活動に大切に使わせていただくことをご報告します。

また「ナンセイスチール」より72インチ大型テレビ、法人会員「スマイル」よりワイン全員分、中国雲南酒膳坊「過橋米線」より3,000円食事券20枚など多くの協賛を賜り、参加者の皆様にお持ち帰りいただきました。

具志堅様からはサインとイラスト入りTシャツ2枚をご提供いただき、チャリティーオー-

クションを開催。会場は大いに盛り上りました。

今回は一般社団法人「龍在日華人援助協会」の劉勇会長をはじめとする多数のメンバーの皆さんと協会ボランティアの皆さんに、早朝から夜遅くまでご協力いただき、雲南省少数民族の華やかな衣装を身に着け、雲南省の雰囲気を演出しました。

参加者、協賛企業、ボランティアの皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。協会は、こうした活動を通じて雲南省の少数民族の教育を支援し、より多くの若者が国際的な人材として日中友好と雲南に貢献できるよう取り組んでいきます。



劉國利顧問



遠藤副理事長



総合優勝、準優勝、3位の皆さん



レディース優勝、準優勝、3位の皆さん



今大会も力強いご協力をいただいた稻福誠顧問

ボランティアの皆さん



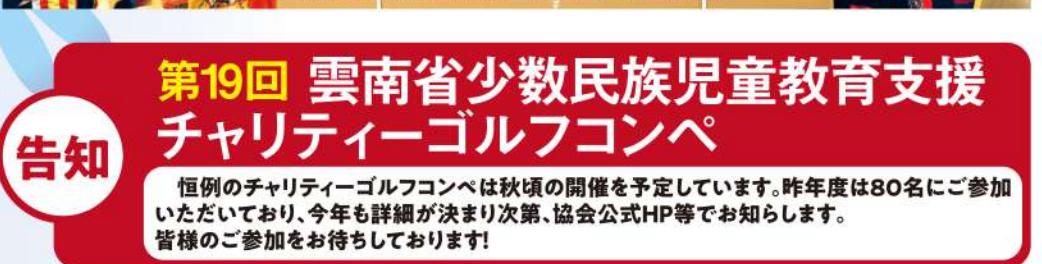
今大会もたくさんの企業・団体様から賞品を
ご提供いただきました

具志堅用高様ご提供Tシャツでの
チャリティーオークション

たくさんの皆様にチャリティー募金をいただきました

チャリティーゴルフコンペご協賛・ご寄付：株式会社ナンセイスチール代表取締役会長 稲福誠（顧問）、株式会社ナンセイスチール取締役社長 劉國利、株式会社ハブ、株式会社スマイル、株式会社ワイ・ケー・オー・ジャパン、株式会社M J、株式会社村上製本所、株式会社共立メディカル共立総合整骨院、キリンビール 安藤弘之、株式会社リンクアーハット、鄧 嶽、常 永波、中国雲南酒膳坊「過橋米線」、綿半ホールディングス株式会社、京王プラザホテル、全日本鉄道労働組合総連合会（JR 総連）、図書印刷株式会社、津久井湖ゴルフ俱楽部、大和ハウス工業株式会社、日立建機日本株式会社、具志堅用高、村田昭二、イソトミ産業株式会社、森正一郎（理事）、一般社団法人日本雲南総商会、参加者の皆様（順不同、敬称略）

チャリティーゴルフコンペボランティア：滝澤崇、陳冠伯、林媛、唐沢知一（以上、協会ボランティア4名）、劉勇、王希媛、石原翼、万黎、杜曉艷、陳偉、孫小慈、福田李紗、王華瓊、李惠、李璐吟、楊慧琴、山本天佑、村松小百合、于玲、黃雲玉、嚴寶林、鈴木美雪、王岩（以上、一般社団法人龍チャリティー協会19名）計23名



第19回 雲南省少数民族児童教育支援 チャリティーゴルフコンペ

恒例のチャリティーゴルフコンペは秋頃の開催を予定しています。昨年度は80名にご参加いただいており、今年も詳細が決まり次第、協会公式HP等でお知らせします。皆様のご参加をお待ちしております！

4年
ぶりの
開催

第20回 チャリティー忘年会 「日本と雲南少数民族の夕べ」

第20回チャリティー忘年会「日本と雲南少数民族の夕べ」が12月13日、ホテルグランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区)で4年ぶりに開かれました。中国駐日大使館公使参事官兼総領事陳巍様はじめ、一等書記官兼領事王宝峰様、日中友好会館中国代表理事・一般社団法人日本雲南総商会名誉会長黄信原様らを主賓に、関係者約100名が出席しました。お楽しみ抽選会やステージパフォーマンス等、楽しいひと時を過ごしました。

開会にあたり、遠藤功副理事長が「協会が発展する過程で、会員や企業、そして雲南の人々から支援や協力を得てきました。この忘年会はただ集まるだけでなく、長年にわたって協会に貢献してくださった方々に感謝するものです。今後とも精進し、忘年会が大成功することを祈念しています」とあいさつしました。

次に2019年から2023年の活動を映像で紹介。初鹿野惠蘭理事長は「疫病が蔓延する

逆境の中、東京、昆明、大宮、名古屋のスタッフと会員一同、前を向いて様々な活動を展開してきました。『25の小さな夢基金』の春雷生たちは恵まれた環境で学業を終え、社会に出て故郷や日中友好の最前線で活躍しています」とコロナ禍の期間を振り返り、各団体や個人に感謝状を贈呈しました。

元在重慶日本国総領事の小松道彦顧問が乾

杯の音頭をとり、日本雲南総商会理事長の閔見典様には中締めのご挨拶をいただきました。

忘年会には17名のボランティアが参加しました。民族衣装姿で参加者に雲南少数民族の文化や民族風習を紹介し、記念撮影におさっていました。

ご出席いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



遠藤副理事長

初鹿野惠蘭 理事長

ご来賓の中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官兼領事の陳巍様

乾杯のご挨拶をいただいた
小松道彦顧問

ご来賓の黃星原様

中締めのご挨拶をいただいた日本雲南総商会理事長の閔見典様

★長年のご支援に感謝状贈呈

長年にわたってご支援いただいている31の個人・法人に、感謝状を贈呈しました。今回出席された9の個人・法人には、初鹿野惠蘭理事長が直接感謝状をお渡しし、ご出席いただけなかった方々には郵送しました。

感謝状贈呈者（順不同、敬称略）

村田昭二、株式会社スマイル、全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）、源清田商事株式会社、株式会社ハブ、株式会社優食、HUNTKEY JAPAN株式会社、株式会社共立メ

第20回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族の友好の夕べ

協会活動にご賛同いただき本当にありがとうございました
今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます



ディカル共立総合整骨院、株式会社ピエナ・カーサ、横浜機材株式会社、安東建設株式会社、株式会社ナンセイ、株式会社ナンセイスチール、新美商事株式会社、綿半ホールディング

ス株式会社、株式会社リングーハット、鷹正宗株式会社、中国雲南酒膳坊「過橋米線」、株式会社京王プラザホテル、津久井湖観光株式会社 津久井湖ゴルフ倶楽部、株式会社ワイ・

ケー・オー・ジャパン、東磐商事株式会社、柳瀬充孝、大木康隆、株式会社MU、安藤弘之、図書印刷株式会社、大和ハウス工業株式会社 南多摩支店、株式会社村上製本所、森正一郎

参加者ご感想

猪飼美瑠さん



協会の元顧問の樋口忠治先生のご提案により設立した「久留米・雲南教育基金」に毎年ご寄付をいただいた猪飼秀隆様のご

息女の猪飼美瑠さんに初めて参加していただき、感想をいただきましたので紹介します。

私は小学生の時に両親と雲南省を旅行しました。当時、雲南省大理の民族衣装を着た二十代の通訳ガイドさんと一緒に買い物をしたのを今でも覚えています。彼女は現地

の言葉、北京語、英語、日本語を話せました。

チャリティー忘年会で、華やかな民族衣装を身に着けた皆さんを見て、とても懐かしい気持ちになりました。「変面」も間近で見ることができ、とても感動いたしました。

また、日本雲南聯誼協会の映像を通じて活発に活動されている状況が分かり、雲南のために尽力していらっしゃる初鹿野理事

長はじめ協会の皆様に敬服いたしました。今後益々、雲南と日本が仲良く成長・発展していくことを祈念いたします。この度はチャリティー忘年会に参加させていただき、誠にありがとうございました。

希望云南与日本继续和谐发展。
感谢大家让我参加这次慈善年终晚会。

猪飼美瑠



この度のチャリティー忘年会でご寄付いただいた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました

シバ文字が描かれた会員手作りの陶器や、雲南省の工芸品・物産品、日本のお酒やお菓子など協会ならではの品が並びました。中身が分からないものもあり「選ぶ時にワクワクした」との声も。当選しなかった方にももれなく景品をお持ち帰りいただきました。

④友情出演 王陽氏トランペット演奏

日本アジア吹奏楽協会会长・瀧陽音楽学院特聘教授・日本平成音楽大学特聘教授の王陽氏にトランペットを演奏していただきました。中国でも有名な「北の國から」の優雅な音色には会場全体が聞き入りました。後半の演奏では、出席者が立ち上がって合唱。終わると盛大な拍手が起きました。



大好評出し物の紹介

①中国武術選手最高級

「武英級」姜馳氏の太極拳

太極拳指導者の姜馳氏による太極拳パフォーマンス。太極拳は古来から中国に伝わるもので、相手の大きな力を柔軟な動きでかわす武術です。現在は健康法としても親しまれ、参加者の皆様にも太極拳を体験してもらいました。



太極の友の会

②トップクラス変面師 王文強氏の「変面」

少数民族の友好の夕べ



変面師・王文強氏
間近で見てもお面が変わる
カラクリはわかりません

「アジア芸術文化促進会」代表の変面師・王文強氏による「変面」。「変面」は中国四川省発祥の伝統芸能で、300年以上の歴史があります。伝統の「絶技」として高い人気を誇り、一瞬でお面が変わる早業は、まさに「瞬間芸術」。その仕組みは秘伝とされています。パフォーマンスの前に、王氏の奥様で協会ボランティアの山本晶さんが「お面が変わる瞬間だけでなく、お面に合わせた動きや役柄の違いについてもぜひ注目してください」と呼びかけました。お面が変わる度に大きな拍手とどよめきが起きました。

③大好評「お楽しみ抽選会」

参加者の皆様や協賛企業から提供いただいた景品を抽選。当選番号が会場の大型スクリーンに映し出されると歓声が起こり、当選者が好みの賞品を選択しました。賞品には雲南省ナシ族のト

ンパ文字が描かれた会員手作りの陶器や、雲南省の工芸品・物産品、日本のお酒やお菓子など協会ならではの品が並びました。中身が分からないものもあり「選ぶ時にワクワクした」との声も。当選しなかった方にももれなく景品をお持ち帰りいただきました。

ボランティア:熊寛、季瑞穎、唐沢知一、錢美琪、楊文敏、宋愛平、龐茜、寧萌、佐久間明秋、里中雪子、李薇、蒋詒汎、耿浩遠、滝澤崇、林媛、高豪 計16名

ご協賛・ご寄付:株式会社村上製本所、市川里福、青島ビール、明澤健康研究所株式会社、株式会社ワイ・ケー・オー・ジャパン、中国雲南酒膳坊「過橋米線」、参加者の皆様 (順不同、敬称略)

今回も出展にご協力いただきました名古屋支部の皆さん
ありがとうございました

名古屋支部イベント報告

今年も出展 第18回名古屋中国春節祭

「第18回名古屋中国春節祭」が1月5日から8日、久屋大通公園（名古屋市中区栄）で開かれ、董紅俊日中青少年交流部長と会員の羅時珍さんに多大なるご協力をいただき名古屋支部もブースを出展しました。春節祭は中国の旧正月（春節）を祝い、中国料理の“味”と“香り”、文化交流の“感動”で日



中交流を促進するイベントです。中国少数民族の舞踊団による踊りなど多彩なプログラムが披露され、来場者数は21万5280人（主催者発表）と過去最多を記録しました。董紅俊日中青少年交流部長のレポートを紹介します。

春節祭に参加されたすべての方々、応援して下さった方々に深く感謝しております。4日間を通じて協会ブースは大盛況でした。中華人民共和国の吳江浩駐日大使、楊嫻註名古屋總領事、大村秀章愛知県知事をはじめとした多くの方々が足を止めて下さり、ボランティアの皆さんの熱心な紹介を聞いていました。

協会ブースは雲南省の民族衣装や工芸品を飾り、書籍や手芸品、特産品のプーアル茶を販売しました。また、会報や記念誌、観光リーフレットで、雲南省および協会・一般社団法人雲南総商会をPRしました。近藤鉢一名古屋支部長も現場でボランティアを励まし、PR活動に参加されました。参加した6人のボランティアに雲南省出身者はいませんでしたが、皆さん誠心誠意活動してくれました。心より感謝申し上げます！ありがとうございました！

董紅俊（日中青少年交流部長）

ボランティア（敬称略、順不同）：
羅時珍、李小婵、李香善、楊菊紅、福本結衣、
張文怡、董紅俊

大宮支部イベント報告

大宮支部新年会開催

大宮支部新年会が1月7日に寺内支部長宅で開かれ、約20人が集まりました。テーブルいっぱいに並んだ支部長手作りの料理に、出席者からは「オー！」という歓声が上がりしました。プロ顔負けの品々はまさに「ガチ雲南料理」。「新年好！」の乾杯で一斉に舌鼓を打ちました。中国語、日本語が飛び交う賑やかな会には、大学生になった参加者のお子さん数人も参加し、その成長ぶりには隔世の感がありました。中断していた国際友好フェアが5月に再開されるとの知らせに、あの賑わいにまた参加できるんだとみんな期待に胸を膨らませました。たくさん料理を各自持ち帰り、5月の再会を約束して散会となりました。

川口邦夫（大宮支部会員・ボランティア）



イベント報告 キツツグループ新年賀詞交歓会出席

協会法人会員の株式会社「キツツ」を中心とするキツツグループの新年賀詞交歓会が1月5日、帝国ホテル（東京都千代田区）で開かれ、関係者約500名が集まりました。同社には「25の小さな夢基金」を応援していただいている清水雄輔顧問と初鹿野理事長が出席しました。協会顧問であるキツツの清水雄輔名誉最高顧問に、初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事が支援への謝意を伝えました。



(左)清水雄輔顧問と初鹿野理事長

お知らせ

協会の元スタッフが描いた絵本のご紹介

10年前の元スタッフ高野です！ 雲南聯説協会でお世話になっていたのは2013～2014年頃。当時、第一回大学生スタディツアーを企画・開催できたことが、今でも自分の糧になっています。今年9歳になる息子ともども、また少しずつ協会の活動を応援出来たらと思っております。

さて、子育て中に絵本出版賞を受賞しまして、ペンネーム「こあらゆう」にて絵本を出版いたしました。

『ビーバーとどろぼうのすてきなひろいもの』は、孤独な泥棒がビーバーとの出会いによって生き方を改めるお話です。泥棒は「カネは沢山あればあるほど、何でも手に入る！」と言いますが、それはお金のほんの一面であり、盗みや詐欺で誰かを傷つけ沢山手に入れたその紙に、一体どれほどの価値があるでしょうか。お金の価値は、「手に入れ方」と同時に「使い方」「付き合い方」によっても変わるように思います。絵本のストーリーには、子どもたちが幸せな人生を送る大人になるよう願いを込めています。

ぜひ、お手に取ってご覧いただけましたら嬉しいです。探し絵など知育要素もあり、プレゼントにも喜ばれる一冊です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

こあらゆう（高野）



イベント情報

日中書法交流展2024

～日本のルーツと雲南～ 入場無料

主催：松宮書法館

共催：認定NPO法人 日本雲南聯説協会

協力：雲南省帰國華僑聯合会
麗江市帰國華僑聯合会

日時：2024年3月24日（日）～31日（日）

場所：松宮書法館 滋賀県犬上郡多賀町多賀1192

日本と雲南の若手からベテランまでの力作が集まりました。流派を超えた書の共演をお楽しみ下さい。

QRコード



日本と雲南の若手からベテランまでの力作が集まりました。流派を超えた書の共演をお楽しみ下さい。



協会イベントに関するお問い合わせ
東京本部事務局
TEL. 03-5206-5260
(平日10~17時)
✉ yunnan@jyfa.org

イベント報告

日本アジア共同体文化協力機構（JACCCO）主催

「日中交流の現場～心と心、技と技～」開かれる

「日中交流の現場～心と心、技と技～」と題したイベントが11月23日（木・祝日）に東京・池袋で開かれました。同イベントを主催した一般財團法人「日本アジア共同体文化協力機構（JACCCO）」は、協会の小松道彦顧問が理事を務めており、初鹿野理事長と林理事が参加しました。

イベント前半では、アーティスティックスイミングの元日本代表コーチ井村雅代さんが講演。多くの五輪メダリストを育成し、2008年の北京五輪では中国代表コーチとして中国チームを初のメダル獲得へと導いた経験を紹介、目標に向かってチャレンジする人にエールを送りました。

後半は、二胡奏者の桐子さんと中国琵琶奏者のさくらさんのジョイント・コンサート。中国伝統の名曲から日本のポップスまで、実力派の2人が多彩なパフォーマンスを繰り広げました。

イベント報告

JR総連主催「2024年新年の集い」出席

協会法人会員のJR総連「2024年新春の集い」が1月10日、ホテル雅叙園東京（東京都目黒区）で開かれました。北海道、大阪、名古屋など全国各地の関係者200人以上のほか、初鹿野理事長、林則幸理事、蘇鑫昆明代表処首席代表ら協会関係者4名も出席しました。

JR総連は2003年に法人会員になって以来、雲南省での「50の小学校プロジェクト」や、少数民族女子高校生支援の「25の小さな夢基金」を支援しています。組合員の皆さんが雲南に行って子どもたちと交流したり、支援生徒にプレゼントを贈っていただいたりと熱心に活動しています。このため、初鹿野理事長から山口浩治執行委員長に感謝状を贈呈しました。



左から初鹿野理事長、山口浩治執行委員長

イベントのお知らせ
2024 雲南ふれあいの旅

5月又は6月予定

ボクシング元WBA世界ライトフライ級王者具志堅用高さんと雲南省へ行き、子どもたちと交流し少数民族文化に触れる旅を企画しています。詳しい日程が決まり次第、HPでご連絡します。



「彩雲の南」へのご意見・ご要望をお待ちしています

日頃から『彩雲の南』をご拝読いただき、ありがとうございます。『彩雲の南』をより一層楽しんでいただけるよう、ご意見・ご提案を募集しています。どうぞお気軽に寄せください。

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階
認定NPO法人日本雲南聯説協会
東京本部事務局

✉ yunnan@jyfa.org
までお気軽にお寄せください。

編集後記

私事ですが、春から日本語教師に転職します。中国では、長期にわたる景気低迷の懼れが指摘され、職を求めて海外を目指す若者が増えています。一方、日本社会は労働人口が減少しており、ウインウインの関係が築けるはずです。日本の将来を考える時、東南アジアをはじめとする各国との関係を深め、優秀な人材を獲得することは不可欠です。協会のように、国際政治に左右されず、'Brienの草の根交流を続けることが大切です。

(編集長・木本一彰)



寄付者からのお手紙紹介

庄司智哉さん

協会は2009年より立命館アジア太平洋大学の学生ボランティア団体「笑 -xiao-」とスポーツを通じた子どもたちとの交流事業を行いました。その「笑 -xiao-」のメンバーだった庄司智哉さんは社会人となり「協会に恩返しがしたい」という温かい気持ちから毎年、教育支援活動へ寄付をしてくださっています。このように協会の人材育成事業から社会貢献を志す優秀な若者がたくさん育っています。庄司智哉さんからのお手紙を紹介します。



雲南省は、私の人生観を大きく変えてくれました。2011年2月、立命館アジア太平洋大学のサークル「笑 -xiao-」のメンバーとして、初めて雲南省を訪れました。舗装されていない道路を進みながら、牛や馬が村中を歩く様子を目にし、自分が生まれ育った環境との大きな違いに衝撃を受けました。白雲村の小学校に到着した時、子供たちや先生方、村人たちが私たちを暖かく迎えてくれました。環境がどれほど異なっていても、私たちは同じ人間であると実感し、同時に自分が僅かでも「かわいそう」と思ったことに恥じ入りました。

その後、大学生活を通じて計3回雲南省を訪れ、児童劇の巡回公演のお手伝いをさせていただきました。日中の児童劇団や政府関係者、そして日本雲南聯説協会の皆様と刺激的な日々を過ごすことができました。異なる立場ながら、夢と大義を持ち、情熱を注いで取り組む先輩方を間近で見て、私自身もそのような大人になりたいと心から思うようになりました。

若さだけが取り柄だった私たちを信頼し、貴重な機会と経験を与えていただいたことに、日本雲南聯説協会をはじめとする関係者の方々に心から感謝しています。わずかながらも、これからも寄付という形で恩返しができたいと考えています。